

環境共生資源学特論実験 (2単位)

担当者氏名 両角和夫

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本特論実験では、環境と経済が両立する地域社会を形成することを目的に、持続的・地域資源利用とその社会的な実現をする上で不可欠な社会システムの利用・構築に関して、必要な社会科学的、自然科学的知識を身につける。そのため特定の事例に取り上げ、関連する社会問題の把握に必要な調査と、地域資源を活用した環境修復・維持と経済振興のあり方、地域環境ビジネスの具体的なあり方などを模索する。また、その場合、国内ばかりではなく、欧米等に見られる事例・データ等を渉猟・検討し必要な知見を得る。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

環境と経済の両立	地域資源	農村現場	欧米等
社会システム	社会問題	地域環境ビジネス	

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の 内容と分量
1	国内事例にみる地域の社会問題、地域資源の賦存状況把握等の実態把握(第1～5週)	・東北地域の農村を事例に、当面する社会問題の実態とその要因を社会科学・自然科学的の両面から分析把握する	◎本講義のねらいは、環境と経済が両立する地域社会の構築のあり方を学ぶものであり、教員と学生相互の議論を重視する。◎事前の学習により教員に質問・問い合わせると共に、地域資源を用いた再生可能エネルギー・環境修復等の取り組み事例などを自分で探し、さらに、成果の発表としてのプレゼンテーションすること。
2	国内事例にみる地域環境ビジネスの取り組みと展望(第6～10週)	・東北地域の農村を事例に、地域資源を用いた地域環境ビジネスの取り組みの実態と、そこでの問題・課題と今後の可能性を展望する	
3	欧米等に見られる地域環境ビジネスの事例と今後の展望(第9～15週)	・欧米等に見られる地域環境ビジネスの取り組み実態と問題、課題を整理し、併せてそこでの政策的な対応状況や我が国への示唆を検討する	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

自然資本の経済／ポール・ボーケン、エイモリ・B・ロビンズ他/日本経済新聞社 (2001年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

コメのバイオ燃料化と地域振興／矢部光保/両角和夫編/筑波書房 (2010年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

成果レポート (60点) とプレゼンテーション (40点) をもとに評価する。

◆オフィスアワー

毎週火曜日の午後研究室で質問等を受け付ける

◆その他受講上の注意事項

自らの考え方を述べる態度で参加してほしい。また指定した、教科書、参考書を熟読しておくこと。